

第14 回国際日本学シンポジウム「文字・表現・交流の国際日本学」
セッションⅡ「西洋に響く能 ―移行・翻訳・解釈―」
2012 年 7 月 8 日（日）於：お茶の水女子大学

世界を能へ

—能トレーニングプロジェクト、シアター能楽、英語能とさまざまな非伝統的な能の活動

武蔵野大学 リチャード・エマート

英語能の劇団〈シアター能楽〉は昨年日本での初めて公演を行い、多くの日本人能楽愛好家が、驚きを持ってこれを受け入れた。実のところ、英語能と呼ばれる公演は、少なくとも 1916 年の W.B.イェーツの時代から行われている。しかし、英語能と能の影響を受けた英語劇の違いについては、現在でもはっきりとした認識の一致を見ていない。本発表者は、1970 年代から、このいわゆる英語能に携わるようになり、作曲や節付、演出等も行っている。2000 年に〈シアター能楽〉を創設する以前から、東京での外国人向けの能トレーニングプロジェクト、及び、アメリカ、ペンシルバニア州ブルームズバーグでの毎年恒例の夏季集中ワークショップを実施し、これらの活動を現在もなお続けている。今回の発表では主に、こうした活動の状況や問題点について、ビデオを用いて紹介する。